

# 彩の歳時記

令和元年 十二月

時経れば昔遊びし  
ことはみな夢か  
現つか埋み火探る

「昔を思うと、夢であったか現(うつ)つであったか、分からなくなってしまう。夜に時雨の雨音を聞きつつ、埋(うづ)み火を探っていることよ」

昔のことを回想しながら、自分の人生を振り返っている深みのある歌。良寛和尚【1758～1831】は名家に生まれながらも

無欲恬淡(てんたん)に、生涯、寺を持たず、貧しくも清らかに暮らし、多くの詩や歌を残し、簡易な説法で広く親しまれたことが今に伝わっています。過去が夢のように思える年の瀬、古来より変わらぬ人の心情を、時空を超えて感じます。



## 十二月の暦

師走 普段、落ち着き払っている禪師も走るほど忙しい月の意。

一日 映画の日 1896年に神戸市で初めて映画が一般公開された日。式典やトークショー、入場料割など。

七日 大雪【二十四節気】『暦便覧』では「雪いよいよ降り重なる折からなれば也」とあるが。

八日 太平洋戦争開戦の日 1941年(昭和十六年) 日本海軍のハワイ真珠湾攻撃により、三年半に及ぶ

戦争の火ぶたが切られた。現在は、憲法に基づき、最後の開戦記念日。

九日 漱石忌 近代小説家・夏目漱石【1867～1916】の忌日。新宿区牛込生まれ。俳誌



『ホトトギス』掲載の『吾輩は猫である』で小説家に。朝日新聞に20歳で入社、同主題の三部作『三四郎』『それから』『門』で、人間の内面描写、エゴイズムを抑制された文体で展開、「彼岸過宛」「行人」「心」を後期三部作という。『明暗』を連載中、四十九歳で病没。没後百年以上経ても古さを感じさせない永遠の現代作家、世界文学作家と位置付けられている。



十四日 義士祭 1702年(元禄15年)この日、赤穂浪士による吉良邸打ち入りの日。本所松坂町吉良邸

跡は現在松坂公園となり、毎年、元禄市で賑わう。午前中は義士祭、午後は吉良祭。

年の瀬や水の流れと人の身は 宝井其角 ↓ あしたまたるる その宝船 大高源吾

十六日 紙の記念日 1875年(明治8年) 元幕臣の渋沢栄一【1840～1931】設立の抄紙会社

「王子製紙の前身」の営業開始に因む。渋沢は2024年度より壺萬円紙幣の肖像に。



2021年度大河ドラマ「青天を衝け」のモデル。出身地・深谷市に旧渋沢邸が現存。

二十二日 冬至【二十四節気】一年で最も夜の長い日。生命の終わる日と考えられ、それを乗り越えるため

厄払いをする。身体を温める南瓜を食べ、長寿命の柚の木に因み、柚子湯に入る。

二十四日 クリスマスイブ キリスト降誕の前夜祭。日本では宗教とは無関係の年中行事に。

二十五日 クリスマス 西暦336年にイエス・キリストの降誕の日と決定されたが確証は

なくローマの冬(太陽の祝日)と結び付けられた。1874年に日本最初のクリスマスパーティー。



二十八日 官庁御用納め 1873年(明治6)より官庁の公休日を1月1～3日、

12月29～31日。土・日曜日にあたる場合は直前の金曜日に。

三十一日 大晦日 除夜の鐘は「心を惑わし、身を悩ませる」百八の煩惱を鐘つき

で取り除く。年越蕎麦は昔、金箔職人が飛び散った金箔を集めるのに蕎麦粉を使ったことから。蕎麦を残すと翌年金運に恵まれないとか。

## 十二月の歌

鞠と殿さま 1929年(昭和4年) 詞 西條八十、作曲：中山晋平。

雑誌の正月号掲載歌として西条【1982～1970】が詞を依頼され、正月に相応しいテーマとして、当時の子供の遊び「毬つき」と正月によく見る「ミカン」を題材に取り上げられたと言われる。正月の風物詩「羽根突き」や「鞠つき」もノスタルジの世界に。



**毬と殿さま**

てんでん手まりは てんごり  
はすんでおかの 屋根の上  
「もしも」紀州の お殿さま  
あなたのお国の みかん山  
わたしに見させて くださいな  
くださいな

おもての行列 なんじやいな  
紀州の殿さま お国入り  
金殺先箱 とまぞろい  
おかのそばには ひげやっこ  
毛槍をふりふり やっこらさの  
やっこらさ

てんでん手まりは てんごり  
はすんでおかの 屋根の上  
「もしも」紀州の お殿さま  
あなたのお国の みかん山  
わたしに見させて くださいな  
くださいな